〔角倉素庵展を終えて〕

鶴鳴き渡る―宗達の鶴図に寄せて―

初めての「角倉素庵」特別展は10月５日に始まり11月10日に終わりました。32日間の会期中におよそ四千人ものひとが来館され、素庵の遺品など148点の作品を鑑賞していただきました。三百七十年前に亡くなった馴染みの薄い人物ですが、この展観を通じて素庵の人となりを知っていただき、企画した者として嬉しく思いました。

私が素庵という人間の存在を知ったのは、大和文華館の学芸員になった昭和46年４月のことで、大和文華館の書庫で偶然発見した林屋辰三郎先生の著作『角倉了以とその子』（昭和19年）が最初でした。早速その本を読み、了以の子である素庵が成した仕事の偉大さに驚き、素庵の数奇な運命に感動しました。爾来三十余年、素庵のことは私の心から離れることはありませんでした。時に素庵の文献資料を漁り、彼の遺品を探しました。同時に彼と親交があった画家宗達を研究しました。素庵と宗達が深く結びついていることが次第にわかってきました。そのことも、今回の展観のテーマの一つになっています。いつのまにか、私は定年まであと二年にせまり、私の最後の企画展として「角倉素庵」を迷わず選びました。この展観が開催できまして、長く学芸員をしてきてよかったと思っています。

今回の特別展図録の表紙デザインは、かつて近鉄の営業企画部で優れたお仕事をされたグラフィック・デザイナーの松山清枝さんの手になるものです。素庵の書写、宗達の金銀泥下絵と推定される大和文華館所蔵『観世流謡本・藍染川』（慶長11年）の「鶴図」下絵の場面を用いた上品な仕上がりで、雅な雰囲気が出ており、この展観に相応しいものになりました（図1）。印刷製本を担当した天理時報社の丁寧な仕事も大きいものがあります。この表紙に、没後三百年間、歴史の闇の中に消えた（消された）素庵の「魂」を白鶴に乗せて、「太虚」を自由に飛んでほしいと願いを込めました。表紙の見事な出来上がりのおかげでしょうか、この図録（定価千円、二千部限定出版）は、会期中に千百部も売れました。

今回の展観では新出の作品、初公開作品を多数展示しました。中でも、『鶴図・和歌扇面』（図２）は、宗達画・素庵書と推定される作品で、注目されました。この作品は、糊地（雲母と糊を混ぜたものを引いた扇専用の地紙）の扇面に、空から舞い下りる三羽の鶴と風に揺れる水辺の葦が大胆に描かれています。絵は万葉歌人、山辺赤人が紀伊国（和歌山県）の和歌の浦（図５）で詠んだ有名な一首「和歌の浦に潮満ちくれば潟を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」（『万葉集』巻六所収。〈和歌の浦に潮が満ちてきて干潟が無くなるので、葦の生える辺りを目指して、鶴が鳴きながら飛び渡っている〉）にちなむ歌絵と思われます。絵のモティーフを避けて、扇の折り跡の内に和歌一首「みにちかくきにけるものをいろかはる人の心の秋ぞしらるる」（『新古今集』巻第十五恋五所収の六條右大臣室と相模の歌を合成したもの）を書いています。扇面に捺された「光悦」黒印は画面に馴染みませんので、後印の可能性があります。この扇面の書は光悦書とされていますが、書の起筆や運筆の特徴から素庵の書とみた方がよいと思います。

宗達が描いた「鶴図」といえば、今回の展観には出陳されなかった重要文化財の光悦書宗達金銀泥絵『三十六歌仙鶴和歌巻』（陶芸家荒川豊蔵氏旧蔵、現京都国立博物館所蔵、図３）が有名です。この和歌巻は、藤原俊成が藤原公任撰『三十六人撰』に選入される歌人三十六人について各三首を選出した歌仙歌合（『俊成三十六人歌合』）の中から、それぞれ一首を選び書写されています。ただし巻頭の柿本人丸の「ほのぼのと」の歌は本歌合にはなく、テキストとなったものは、その異本と考えられます。光悦は、素性法師と猿丸大夫の順番を間違い、また源重之と源信明朝臣の歌を二首書きもらし、後に歌合せの順序に従い、わずかな余白に小さく書き込むという失態を行っています。宗達の金銀泥による飛翔する「群鶴」と「洲浜台」、「波」と「雲」の図は長い巻物の特性を活かした奇抜な表現です。この絵からは、前の赤人の歌「和歌の浦」のイメージが想像されます。文芸の遊びとしての「歌合」には「洲浜（台）」は欠かせない道具の一つです。本和歌巻は、和歌の浦の玉津島神社（図４）に祀られた歌神衣通姫に捧げるという趣向によって作られたものと考えられます。その趣向を考えたのは素庵ではないかと私は推理しています。　（林進）

図4　玉津島神社（和歌山市、和歌の浦）

図5　和歌の浦（妹背山からの展望）

図1　素庵展図録の表紙

図2　鶴図・和歌扇面　宗達画・素庵書（推定）

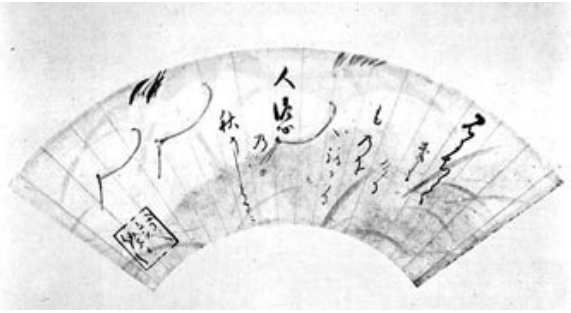

図3　鶴下絵・俊成三十六人歌合和歌巻　宗達画・光悦書

季刊 美のたより №141
平成15年１月５日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.